

令和元年度 第3・4・5回 合同番組審議会 議事録

1 開催年月日

令和2年2月5日（水） 午前10時00分～午前11時ごろ

2 開催場所

砺波市太郎丸2-129 北日本新聞社砺波支社 会議室

3 委員の出席

委員総数 5名

出席委員数 5名

出席委員の氏名（◎委員長）

- ◎ 館 俊博 (72歳、男、砺波市文化協会会長)
- 小幡 豊 (70歳、男、砺波市文化会館館長)
- 安達 陽子 (46歳、女、木彫刻家)
- 池田 麻衣子 (46歳、女、株式会社三喜有常務取締役)
- 大谷 忠史 (42歳、男、砺波商工会議所青年部会長)

放送事業者側出席者名

- 河合 常晴 (株式会社エフエムとなみ 代表取締役社長)
- 古井 裕人 (株式会社エフエムとなみ 取締役業務部長)
- 高信 静枝 (株式会社エフエムとなみ 放送課長)

4 議事の概要

社長の挨拶に続き、放送番組についての説明の後協議へ。

その後は、番組編成などについて意見交換を行った。

5 議題

1. 放送番組に対する評価

《対象番組》

- ・お茶の間トーク（2019年11月3日（日）放送）

毎週日曜午前10時から放送。

となみ地域で活動する方をゲストに迎えて、仕事や趣味、休日の過ごし方など様々な話を伺う1時間のトーク番組。

今回は昨年7月に着任された砺波税務署長保井久理子さんに税務署のことや砺波での

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

生活について伺った。

(聞き手：境佐余子)

・スクールキャスターズ (2019年10月25日放送)

毎週金曜午前7時30分から放送。

朗読やラジオドラマ、部員の掛け合いで進めるバラエティトーク番組など、砺波地域の中学生、高校生が制作するプログラム。

今回は福岡高校放送部が担当。

・垣田堂のカキタイムズ (2019年12月3日放送)

毎月第1、3火曜午後7時から放送。

アメリカ合衆国ニュージャージー生まれ、金沢育ちのギタリスト垣田堂さんが独特の感性で様々なジャンルの曲を紹介する30分のプログラム。

今回はクラシックギターの楽曲とその魅力を紹介。

2. 番組編成に対するアドバイス

3. その他

6 審議内容 (各委員の発言を要約して箇条書きで記載)

【小幡副委員長】

・「お茶の間トーク」について

ゲストを迎えて、じっくり様々な角度から紹介できる点が良い。

「税務」という馴染みにくい印象が、この番組のゲストとしては異色な感じがした。

無難にまとまっていた感がある。

もう少し税務について深く切り込んでほしかった。「よいイメージがない」とあえて言うという展開もあったのではないか。

聞き手の進行の方向性が見えにくかった。

東京出身で長女を連れて砺波に赴任しているということで、東京人からみた砺波といった切り口もあったのではないか。

・「スクールキャスターズ」について

中高生には、朗読やラジオドラマにもっと挑戦してほしい。

話し方等の勉強にもなるし、その中で今の学生の思いを伝えることもできるのではないか。

今どきの高校生がどんなことを考えているのか知りたい。SNSで話題のこと等、考え方を聞ける番組にしてほしい。

・「垣田堂のカキタイムズ」について

ギターの音色の違い、甘い、悲しい、力強い等、その面白さが分かって楽しく聴けた。

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

あっさりした説明が逆によかった。

ギター制作についての話もあったが、もっとギターの楽しみどころ、聴きどころ、ポイントを教えてほしい。

・番組編成について

「ながら」で聞き流せるのがラジオのいいところではないか。そういう点も意識した番組編成を考えてほしい。

【池田委員】

・「お茶の間トーク」について

ゲストの保井さんとは面識があったので、気さくな人柄が十分に引き出せていてよかった。

プライベートをうまく聞き出していたのではないか。人間性が垣間見えた。

税務に関しては「なんでも聞いてください」というアピールが伝わってきた。

砺波に赴任する前は消費税に関わる部署にいた方なので、もっと消費税について聞いてもよかったか。

同じ働く女性として「すごいな、自分もがんばらなければ」と思える内容だった。

・「スクールキャスターズ」について

初々しく、学生らしい番組だった。

こういう番組があるというのが、地域の放送局だなと感じた。

もう少しキャラクターを演じきればもっと面白くなるのではとも感じた。

若さ、元気が感じられる番組で、自分の学生時代を振り返りながら聴けた。

・「垣田堂のカキタイムズ」

なんとなく聴いてしまうラジオらしい番組。

くどくどしない説明ながら、興味のある人には検索先を伝えるなどバランスがよい。

知らない世界を聴き知った。面白かった。

こんな番組を作れるところがラジオのよさではないか。

【安達委員】

・「お茶の間トーク」について

ゲストの保井さんは娘の表彰式で見かけたことがあったので、番組を聴きながら「こんな方なんだ」と親近感がわいた。

「お母さん」としての顔が見えてきて、身近に感じることができた。

税務の難しいイメージが少しほぐれた。

税務業務に関しても身近な分かりやすい話題があるともっとよかったか。

・「スクールキャスターズ」について

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

高校生2人の掛け合いだったが、今の女子高生を表していると感じた。
子どもたちも聴いているのか、どんな人が聴いているのか気になった。

・「垣田堂のカキタイムズ」

ギター好きな人にとっては、一日の終わりに癒しになるような番組だと感じた。
垣田さんの声のトーンも聴きやすかった。

【大谷委員】

・「お茶の間トーク」について

ゲストの保井さんは上手にお話される方だなという印象を受けた。
仕事の話、プライベートな話とうまく転換されていたと感じた。
最後にもう少し深く業務の話が聴けたらよかった。
トークのバックにBGMがあっても良いのではないかな。

・「スクールキャスターズ」について

今の中高生の喋り方のレベルの高さを感じた。
アイドルを意識しているのか、すごく勉強しているのが分かった。
同年代に対しての放送か親世代に対するか、ターゲットを絞ればもっと面白くなるのではないかと感じた。

・「垣田堂のカキタイムズ」

マニアックな選曲で好きな番組だなと感じた。
放送時間の割には落ち着いているのかなと感じた。もっと明るいトーンでもいいような気がした。

・番組編成について

エフエムとなみでは比較的マニアックな選曲の番組も多いように感じる。コミュニティ放送ならでは、枠にとらわれない番組編成も良いのではないかな。
放送時間や聴取者の年齢層等、ターゲットを絞った番組作りも考えてほしい。

【館委員長】

・「お茶の間トーク」について

気さくに話される方だなという印象を受けた。
税務署には関連団体が多いということ等知らなかったこともあり、税務についてどう理解してもらい、納めてもらうかにアプローチされていたように感じた。
ゲストが選曲した3曲に人柄が表れていたのではないかな。
東京からの赴任とのことで、砺波で生活してみてもの気付きなど具体的に聴ければよかったか。
ゲストの「仕事もプライベートもサポートしてくれる方がいないとできない。サポートして

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

もらってできている」という言葉が印象的だった。

・「スクールキャスターズ」について

今の高校生はすごいなと率直に感じた。自分を振り返ると、緊張してとてもこんな風に話せなかったなと思った。

中学生、高校生がどんなことを考えているのか知りたい。

大人にも分かるようなテーマ設定でも面白いのではないか。こちらからテーマを投げかけてもよいのではないか。

・「垣田堂のカキタイムズ」

「ギターには完成がない」という話があり、完成しないものを販売するのか？育てるとは？等興味を持って聴けた。

ギターで演奏した「コキリコ」も民謡がどうなるのかと期待をもって聴けた。

・番組編成について

地域の名所旧跡、イベントの紹介等、地元の放送局ならではの旬のトピックスを盛り込んで地域性のある番組作りをしてほしい。

紙媒体による番組告知等、聴いてもらう方法も考えてほしい。

7 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

・「お茶の間トーク」について、聞き手への情報提供と番組進行の方向性を担当ディレクターも確認するよう指示した。(令和2年2月10日)

・「スクールキャスターズ」について、局側からのテーマの提供が可能かどうか、次年度に向けて学校側と意見交換するよう担当者に確認した。(令和2年2月10日)

・ターゲット層を意識し、地域性のある番組編成となるよう各担当者と意見交換した。(令和2年2月10日)

8 審議機関の答申又は意見の概要の公表

令和2年2月6日付北日本新聞朝刊に記事を掲載。

FMとなみのHP上でも議事録を公開。

以上

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------